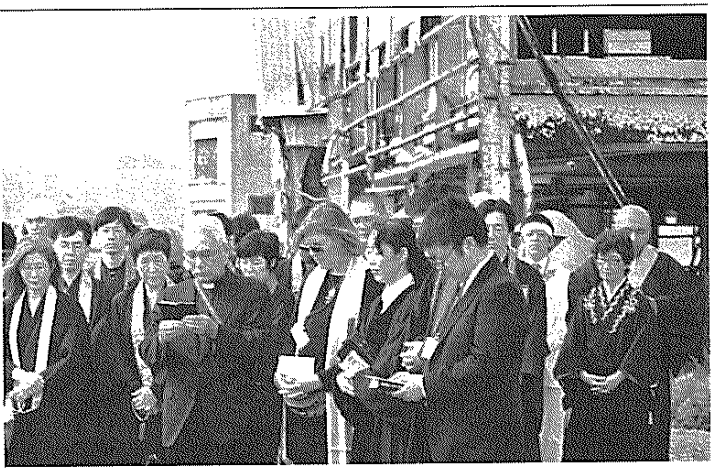
枠超え臨床宗教師研修

東北大と龍谷大が合同で

東北大実践宗教学寄附講座は5月20～22日、第5回臨床宗教師研修の最初の全体会を宮城県石巻市で行った。今回は同様の講座を開設した龍谷大実践真宗学研究科との合同研修として実施された。修了者らによる支部活動も活発に行われるなど、臨床宗教師養成の輪が次第に広がりつつある。

参加者は東北大が19人、「出発点を同じに」との思いから龍谷大が11人の計30人。ボランティアやカウンセラーとしてケアの現場で働いた経験を持つ人や、臨床宗教師会九州支部が2月に開催した「入門講座」を機に受講を決めた人など、全国から宗教・宗派の枠を超えて受講者が集まった。おのおのの日常儀礼の報告・実践や、受講者同士のロールプレーなどを通じ、多様な価値観を認め合うプログラムが設けられた。



震災犠牲者へ追悼の祈りを捧げる受講者ら

追悼巡礼では、宿泊所の曹洞宗法山寺を出発し、北村暁秀・副住職の先導で津波の爪痕が残る6キロほどの道のりを歩いた。石巻市ではいまだに400人以上が行方不明のままだ。ほのかに潮が香るほどの距離で河口に臨み、朽ち果てた食品会社の建物を背に、受講者らがそれぞれの宗教儀礼によって慰霊の祈りを捧げた。団扇太鼓に合わせた唱題やキリスト教の聖句が響く道中、沿道には手を合わせる地元住民の姿も見られた。

受講者は「宗教協力の力を実感した」「被災地に来るのは初めてで、ずっと受講したいと思っていた」などと話した。今後は2回の全体会と、その間に各地の医療・福祉施設などでの実習が行われる。

これまで同講座は、延べ57人が修了。公共的な役割を果たす宗教的ケアの専門家としての「臨床宗教師」には、宗教系大学や医療・福祉の現場などからの注目が高まっている。

（佐藤慎太郎）